

研究活動報告書

1.被招へい研究者 所属・氏名 Name of Fellow, Affiliation 香港市立大学応用社会科学部・CHAN Kwok Hong Raymond CHAN Kwok Hong Raymond, Department of Applied Social Sciences, City University of Hong Kong
2.受入研究者 所属・職・氏名 Name of Host, Position, Affiliation 千葉大学大学院社会科学研究院・教授・大石亜希子 Akiko Oishi, Professor, Graduate School of Social Sciences, Chiba University
3.研究テーマ Research Theme under the Fellowship ライフコース・アプローチによる青年期から成人期への移行に関する国際比較研究 Life course social policy: a comparative study on youth transition to adulthood
4.採用期間 Fellowship Period 2018年4月26日 ～ 2018年5月15日 From(Year/Month/Day) To(Year/Month/Day)
5.研究実施の状況とその成果 Research implementation and results 今回の Chan 博士の招聘(4月26日～5月15日の20日間)の主たる目的は、以下の3点であった。 第1は、青年期から成人期への移行に関する国際比較データの入手・利用方法について検討を行うこと。とくに、成人移行期のライフリスクを把握できるデータの所在と国際比較の可能性について検討を行うことがポイントであった。 第2は、ライフコース・アプローチに基づく青少年期から成人期への移行に関してセミナーを行い、千葉大学を始めとする国内研究者と討議・意見交換を行うこと。 第3は、外国人ケア労働者を巡る問題について香港の実情を踏まえて討議・意見交換を行うことである。 これらの目的を達成するために、招聘期間中に以下のような活動を実施した。 1. 独立行政法人労働政策研究・研修機構(JILPT)訪問(東京都練馬区・4月27日) JILPTは日本における労働研究のナショナル・センターである。受入研究者は以前より、JILPTの研究プロジェクトに参加し、現在もJILPTの行う調査の設計・実施・分析に関わるなど研究協力関係を構築している。当日は受入研究者も同行して、若者の教育から職業への移行に関する研究の第一人者である堀有喜衣氏(JILPT主任研究員)、子育て世帯や女性就業に関する研究の専門家である周燕飛氏(同)とChan博士の4名で意見交換を行った。まず、堀氏から若者の教育と就業を巡る日本の実状について、制度面や最新データの解説をしていただき、次に、周氏を含めてJILPTにおけるこれまでの若者に関する調査についての解説と、調査票の説明をしていただき、国際比較の可能性について議論を行った。Chan博士は事前に堀氏の論文を読んでおり、とくに日本で「氷河期世代」と呼ばれる2000年前後に社会に出た世代の就職とキャリア形成に多大な関心を持っていた。香港やChan博士がしばしば共同研究を行っている台湾においては、1997年の金融危機後、若者の不安定雇用が増加していることが大きな問題となっている。JILPTでの意見交換を通じて、コーホート(世代)に着目したデータを構築し、国際比較を行う必要性が明らかになった。 2. 日本国内(関西方面)の研究者訪問(4月30日～5月5日) 上村泰裕氏(名古屋大学・5月1日)は『福祉のアジア 国際比較から政策構想へ』(名古屋大学出版会)でアジア・太平洋賞を受賞している社会政策の専門家である。同氏はまた、East Asian Social Policy (EASP) Research Networkの幹事の一人として2017年大会を名古屋大学で主催するなどアジアの研究者との国際共同研究に積極的に関わっている。同氏とは今年7月に英国Bristol大学で開催される予定の2018年EASP大会について情報交換を行うとともに、EASPのリサーチネットワークの拡大方針について議論を行った。 高橋睦子氏(吉備国際大学(岡山)・5月2日)は、フィンランド滞在歴が長い社会政策の専門家である。高橋氏はまた、フィンランドの「ネウボラ」という子育て支援システムを日本に紹介した研究者として著名である。Chan博士とは共著(<i>Risk and Public Policy in East Asia</i> , Ashgate 2010)もあり、今回の訪問では東アジアにおける家族政策の北欧との対比について議論を行った。 落合恵美子氏(京都大学・5月3日)は家族社会学の日本における第一人者であり、Chan博士とは長年に渡る交流がある。落合氏はまた、Chan博士と受入研究者らが最近出版した著書(<i>Gender, Care and Migration in East Asia</i> , Palgrave 2018)の書評も引き受けていただいている。同氏とは、東アジアの移民ケア労働者の問題について同書に基づき議論を行うとともに、落合氏の論文でも取り上げているケア・ダイヤモンド(国・民間セクター・コミュニティ・家族でどのようにケアを分担してい

るかを国際比較する際に用いる概念図)の汎用性についての議論を行った。

このように、上記の3氏にはゴールデン・ウィーク中にも関わらず意見交換の時間をとってもらうことができた。

3. 日本国内(関東圏)の研究者訪問(5月7日/8日)

山田昌弘氏(中央大学・5月7日)は、「パラサイト・シングル」論で知られ、若者の職業人生への移行期について多数の著作がある社会学者である。同氏からは、今回の来日の主目的である若者の移行期の問題について、最新の知見をヒアリングした。

相馬直子氏(横浜国立大学・5月8日)は以前よりChan博士と共同で「ダブルケア」の国際比較を行っており、共著論文もある。「ダブルケア」とは、子供のケアと老親のケアがライフサイクルの同時期に起こる現象を指す。日本を含めて東アジア諸国では、晩婚化とそれに伴う第一子出産年齢の上昇から、子育て期にありながら親の介護問題にも直面する人々が増加しているとして、そうした人々を支える政策のあり方が問われている。日本の内閣府もダブルケアの実状把握に取り組んでおり、相馬氏は、日本におけるダブルケア研究の第一人者として知られる。今回の訪問では、以前より行ってきた共同研究を書籍に取りまとめる企画について意見交換を行った。

4. グローバル関係融合研究センターでのセミナー(千葉大学・5月9日)

Chan博士をゲスト・スピーカーとして、同センターにて *From youth to adulthood: An issue? Which deserves social policy intervention?* と題するセミナーを開催した。講演においては、人生におけるステージの変化(trajjectory)を重視するライフコース・アプローチが、若者問題の分析になぜ有効であるのか、また、社会政策がそれにどのように関わるのかを中心に議論が展開された。さらに、豊富なデータを用いて、香港の若者を巡る雇用情勢が悪化しているにもかかわらず、労働保護規制がほとんど存在しないために社会経済的に脆弱な状態に若者が置かれていることが説明された。また、若者の自立を妨げる香港特有の要因として、香港が人口過密都市で、地価の高騰による住宅問題の悪化の影響があることも指摘された。

セミナーには同センターの研究者だけでなく、千葉大学大学院社会科学研究院の教員、政治学の観点から若者問題を研究している千葉大学の特任研究員や、アジアからの留学生を含めた大学院生も参加し、日本との共通点・相違点について密な議論が行われた。セミナー後は同センターにて茶話会を開催し、親睦を深めた。

5. 学部生のゼミナール(千葉大学・5月10日)

グローバル関係融合研究センターに所属する小川玲子氏(千葉大学大学院社会科学研究院准教授)のゼミナールは、社会政策と育児・介護などの移民ケア労働者について特に深く研究を進めている。Chan博士と小川氏は共同の著書も複数あり、従前から密接な研究協力関係にある。今回は、小川ゼミにおいて千葉大学法政経学部の学生を対象に、香港における若者の教育や就職の状況、メイドなど家事労働者の実状について説明と質疑応答を行った。一流研究者との直接の交流は、学部生にとって大きな経験となった。

6. 千葉大学の研究者との意見交換(千葉大学・5月11日、14日)

Chan博士と受入研究者は、王麗容博士(国立台湾大学)、金珠賢博士(国立忠南大学)との4名共同で東アジアのパートタイム労働とワークライフコンフリクトについて共著論文を執筆するなど、以前から密接な研究協力関係にある。また、Chan博士、王博士、小川玲子氏と受入研究者は共同して東アジアの移民ケア労働者についての著書を刊行している。こうした経緯から、上記の2日間に限らず、滞在期間中には頻りに研究上の意見交換を行った。目下、日本の外国人労働政策が大きな転換点を迎えつつあり、介護を中心とする移民ケア労働者のあり方について、日本は香港の制度から多くを学べると考えられる。

総括

このように、短期間の招聘ながら国際比較研究に必要なデータの所在と内容を確認し、研究の方向性を定めることができたことに加え、日本国内の研究者と広範な交流を行うことができた。さらに、Chan博士の滞在中に、若者の意識について研究中の本学研究者との共同研究プランも立ち上がり、当初の目的以上の成果を上げたと評価できる。東アジアにおける第一線の社会政策研究者と直接の人的交流を行うことで、千葉大学の研究者だけでなく、日本の多くの社会政策学者が知的刺激を受けることができた。Chan博士の研究テーマである成人移行期に付随する様々なリスク(不安定雇用や失業、メンタル面での問題など)は、香港や日本だけでなく先進諸国に共通して観察されるものであり、本研究を通じて、先進諸国の若者の経済的・精神的なウェルビーイング改善に向けた有効な手がかりが得られると期待される。



本センター所属、小川玲子教授、大石亜希子教授との共著書を手にする Chan 博士（千葉大学・大石研究室にて）